

## 平成最後の上田高校卒業式に参列

(3月2日、334名を送る)

上原昇 (2組、関東同窓会会長)

3月に入っての最初の土曜日はすっかり春めいて好天となった。昨年に引き続き今年も、上田高校卒業証書授与式に関東同窓会を代表して参列した。今年の卒業生は117期というから我々より52年若いことになる。同期の中には同じ年代のお孫さんがいるかもしれない。卒業生の数は全日制が317名、定時制が17名、計334名。

男女はみたところ半々である。いつも感じることだが、生徒の服装が昔と全く違うので戸惑ってしまう。特に女生徒はほとんど全員が和服に袴姿で華やかな雰囲気である。

廣田昌彦校長からクラス代表に卒業証書が手渡され、その後、校長の式辞、来賓(金子元昭同窓会長ほか)の祝辞が続いた。送辞は2年生の女子生徒が堂々と、答辞は全日制と定時制の代表(男子生徒)による折り目正しい内容であった。

最後は卒業生全員が立ち上がり、式歌「旅立ちの日に」(作詞小嶋登、作曲坂本浩美)の大合唱。日頃練習を重ねたあとが伺える見事なハーモニーは感動的であった。

117期の生徒たちは、SGH(Super Global High School)認定後入学しているので在学全期間、SGHの貴重な経験を重ねている世代である。

「旅立ちの日に」の歌詞にあるように、「今別れの時 飛び立とう 未来信じて・・・この広い この広い 大空に」そのものの式となった。

式場の第一体育館の外に出ると、古城の門の前でクラス別の記念撮影が行われていたが、この微笑ましい風景はいつの時代も同じように見えた。

(2019年3月2日記)

【卒業式後、古城の門前で記念撮影を】

